

2024 年度

総合資料



Ichinoseki

一般社団法人 一関青年会議所

JCI Creed

The Creed of Junior Chamber International

We Believe;

That faith in God gives meaning and purpose to human life ;

That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations ;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise ;

That government should be of laws rather than of men ;

That earth's great treasure lies in human personality ; and

That service to humanity is the best work of life

【意識】

我々はかく信じる:

「真理は人生に意義と目的を与え

人類の同胞愛は国家による統治を超越し

公正な経済は我々の自由な経済活動によってこそ果たされ

政府には人治ではなく法治が必要であり

人間の個性はこの世の至宝であり

人類への奉仕が人生最大の使命である」

JCI Mission

To provide leadership development opportunities
that empower young people to create positive change.

【意識】

青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすためにリーダーシップの開発と成長の機会を提供する。

JCI vision

To be the foremost global network of young leaders.

【意識】

青年会議所が、若きリーダーの国際的ネットワークを先導する組織となる。

J C宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

綱 領

われわれ J A Y C E E は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じくする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るく豊かな社会を築き上げよう

東北 J C 宣言

われわれは
新たな価値を創造する旗手として
尊い「結」の精神を呼び覚まし
かつてない未来を切り拓くことを誓う

JC（青年会議所）とは

青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感を持った20歳～40歳までの指導者たらんとする青年の団体です。人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意思によりその居住する各地域の青年会議所に入会することが出来ます。

全国的運動の総合調整機関として日本青年会議所が東京・千代田区にあります。また、アメリカ・チェスターフィールドには国際青年会議所（JCI）事務局があります。現在、118の国及び地域に105国家青年会議所（NOM）を数え、150,000人（2021年1月現在）が国際的な連携を持って活動しています。

日本青年会議所の綱領には、青年会議所の行動理念と目標を明確に表現しています。創立以来の「三信条」は、JC運動の歴史を迫って具体化され、青年会議所運動とは、「指導力開発(LD)と社会開発(CD)」であるとも言われてきました。その後、JC運動の基軸は「自らに活力と知力を兼ね揃え積極果敢に社会改革運動を實踐できる人間」であるとの考えから「人間力開発」も必要であるとし、日常の活動の場を通じて、我々自身を開発し、市民運動の先頭に立って進む団体、それが青年会議所なのです。

JC 三信条

トレーニング＝個人の修練
サービス＝社会への奉仕
フレンドシップ＝世界との友情

1950年5月1日にJCの行動綱領としてこの三信条が採択されました。JC運動は若い人々が集まって自己啓発・修練を行う場であり、培われた力を用いて地域社会にサービス（奉仕）することであると示されました。ただし、上記に記載されたフレンドシップ（友情）とは違う意味で、会員全員、同志を貫く友情があるということと言うまでもありません。

なお、これらの言葉以外にも Jaycee を表す言葉として、「英知と勇気と情熱」と表現されることが多いが、この言葉は下記の文節から採用されたとされている。

英知「変えていくものと残すもの、その2つを見分ける英知を我に与えたまえ」

勇気「変えるべきものを変える、チャレンジする勇気を我に与えたまえ」

情熱「変えてはならないものを受け入れる、その冷静さを我に与えたまえ」

目次

■ 2024年度基調編

理事長所信	pg. 8
スローガン、基本理念、基本方針	pg. 12
組織図	pg. 13
2024年度出向者	pg. 14

■ 事業計画

地域未来創造委員会	pg. 15
自立地域推進委員会	pg. 17
地域文化継承委員会	pg. 19
組織未来創造委員会	pg. 21
事務局・監事	pg. 23
出向者	pg. 24

■ 2023年度報告編

理事長報告	pg. 27
会務報告	pg. 29
組織図	pg. 42

■ 事業報告

委員会事業報告	pg. 43
出向者報告	pg. 47
会員移動報告	pg. 50

■ 資料編	pg. 51
-------	--------

基 調 編



一般社団法人一関青年会議所
第69代理事長
鈴木 達也

【理事長所信】

はじめに

皆さんには小さい頃どのような思い出があるでしょうか？

小学生の頃のボーイスカウトでのキャンプ体験、二代目時の太鼓大巡行などの地域のイベントへの参加、家族での紙すきや舟下り体験など、地元には多くの思い出があります。

中高生の頃には、部活帰りにラーメンを食べたり、まちなかで友達と過ごしたりと、今でも思い出す風景があります。

社会人となり、地元に戻ったとき、今までなかった新しい場所や体験がある一方で、思い出のつまったラーメン店やアパレルショップがなくなっていることや、イベントの規模が縮小されていることに気づき、寂しさを感じていました。

一関青年会議所に出会い地域活性化に取り組む中で、昨年、私たちは「一関を魅力的な地域に変えるためには、どのような未来を描くべきか」というテーマで、若者と地域の人々が、語り合う事業を実施しました。

そこで、年齢や性別を超えて、より良い未来を築くために目を輝かせ、積極的に意見を交換する参加者の姿がありました。

しかし、その中で一人の参加者の言葉に私はハッとしました。「地域の課題解決が重要と考えている若者が増えているのか？それとも、自分たちで課題を解決しなければいけない環境になってしまったのか？」

私が10代の頃は、都会に対して憧れを抱いていながらも、地元の未来に不安を抱いていなかったことに気付かされました。私にとっての一関は、多くの体験の機会、場所を提供してくれた場所であり、この地域が残り続けると感じさせてくれていました。

このことが、私が一関に帰って来たいと感じた一つの理由となっていたのだと思います。

「地域をよりよくしたい」と活動している今の若者たちは、地域の未来に対して漠然とした不安があるのかもしれないと感じ、彼らや自分の子供たちに自信を持って「帰っておいで」と言えるか考え始めました。

子供たちに「帰っておいで」と言えるまち

一関市は岩手県内で面積第2位、全国でも12番目の広さを誇ります。県内トップクラスの生産高を誇る稲作や畜産を中心とした農業。伝統工芸や電気電子部品製造をはじめとする製造業。登山やスキーやスノーボードを楽しむ人々に愛される東西に広がる山々。広い市内に多くの特徴があります。

現在、日本は少子高齢化に伴う人口の減少や、地球環境の変化から来る異常気象による災害の増加など、不確実性の中で多くの問題・課題に直面しています。

私たちの住む一関も、現在の約10万8千人から2045年には約7万4千人まで減少する推計が出ています。特に少子高齢化による生産年齢人口比率が現在の53%から48%となる推計であり減少が目立っています。

人口減少は消費者の減少につながり、まちの中で日常的に消費をする商圏人口は縮小していくことが見込まれます。特に高齢者に比べて消費支出額が多い生産年齢人口の減少は、地域経済に大きな影響を与えます。

また、市外の消費者や企業にモノやサービスを展開する企業などにおいても、国内需要の減少を見越した対応の必要性が高まっています。地域における付加価値額を今後も維持するためには、労働人口が少なくなる中、労働者1人当たりの生産性を高めることが求められます。

これら地域経済の縮小は、地域内で働くときの選択肢や待遇の悪化を招くとともに、所得が改善されないことにより安心して子育てや結婚ができなくなってしまいます。

また、スポンジ化現象により一人あたりの社会インフラコストの負担が大きくなり、現状の形で地域を維持することは困難です。

地域で安心して暮らしていくためには、経済的に安定し、多様な働き方の選択肢があり、自立していけることが求められています。

本年度は、私たち大人が自分たちの子供に「帰っておいで」と胸を張って言えるまちづくりのために、「経済・暮らし・文化」の質を高める運動に取り組んで参ります。

まちの未来をつくる質の高い経済

少子高齢化と人口減少の進行は経済規模の縮小や、人口密度の低下によるインフラの衰退を招きます。これらに対応するためには、地域内外で特徴を活かした役割分担を行い、それぞれの地域で暮らしていけるようになることが重要です。他方で、地域での役割分担を進めていく中で、従来の役割を持っていた人を取り残すことなく助け合うことも重要な課題となります。これらを解決するために、地域の特性を生かしながら、課題を解決することで地域内の人やモノ、カネの循環を作り出し、経済の質を高める運動に取り組んで参ります。

自ら主体となって暮らし続ける地域一関に

人口減少により、経済、生活基盤の不安定化が進む中、従来どおりの発想や取り組みでは通用しない大き

な転換期を迎えています。

自分たちの地域を住みやすくするためには、多様な考えを取り入れながら、「市民主体」で自ら考え共に行動することが求められています。市民、地域、企業、行政など多様な担い手が、それぞれの立場や責任に応じて協力関係を築き、共に行動し自分たちが住み暮らす地域を理解し合う必要があります。

それにより、地域の中での協調性が生まれ信頼やネットワーク、個々の技術やスキルといった様々な価値を共有することができます。

それぞれが課題解決の担い手としての強みや役割を互いに理解し、各地域が持続可能性を見出し協力することで暮らしの質を上げ、安心して生活できるまちを創っていくための運動を展開して参ります。

【「二代目時の太鼓大巡行」を中心とし文化の質を高め、地域文化を継承する】

「一関にすぎたるもの二つあり 時の太鼓と建部清庵」という言葉が示すように、江戸時代において時を告げる太鼓は希少であり、その伝統的な価値が一関の誇りとなっています。1976年に始まった「時の太鼓兄弟 揃い打ち巡行」から始まった「二代目時の太鼓大巡行」は、一関夏まつりにおける大きな存在となりました。

私が子供の頃に体験し、今でも心に残る「二代目時の太鼓大巡行」。昨年、45回目の節目を迎えました。一関藩主田村家の歴史的なつながりからはじまり、ゆかりのある三春町と岩沼市で活動する青年会議所と連携して地域交流を促進し、子供たちに対してエンターテインメントを活用したアクティビティを提供するなど、地域との結びつきを深める取り組みも行われました。

人口が減少しても、担い手が集まる文化とするために、一関地域にとって重要な文化であることを多くの市民に再認識してもらい、魅力ある「二代目時の太鼓大巡行」を次代に残していく必要があります。

この「二代目時の太鼓大巡行」を通じて、関係地域と連携し、多様なストーリーを繋ぎ、魅力や価値を共有し、共感を生み出すことで、地域文化の質を上げ、次世代に引き継いで参ります。

明るい豊かな地域を作るための持続可能な組織に

一関青年会議所は、68年間地域の課題解決に挑み続けてきました。繋いできた大事な想いを引き継ぐとともに、時代に即した組織へ常に変化し続けることで、地域にとって必要な組織であり続けなければいけません。

現在の一関青年会議所は、会社員や女性など多様なメンバーにより構成されており、その多様性は、それぞれのライフスタイルや働き方に表れています。

メンバーの強みや特徴考えを理解し合うことで、互いを尊重しながら活動することにより強固なつながりを構築できると考えています。過去から繋いできた歴史を振り返り、私たちの組織文化や仕組みの意味を再認識し、時代に合わせた組織へと変化していくとともに、新入会員をサポートし、共に活動をする仲間として迎え入れる環境を整え、多様なメンバーが安心して活躍できる組織の仕組みを確立していきます。

また、より多くの新しい仲間を迎え入れることで、様々な視点が生まれ、より地域に対してインパクトのある運動を展開していくことが可能となります。

新たな仲間との結びつきは、われわれの運動の拡大や、地域課題の解決に不可欠です。

時代に即したツールを利用して、われわれの活動や想いを広く伝え、共感を得ることが重要です。組織の未来はその組織のメンバーにかかっています。地域のリーダーとなる多様な仲間を迎え入れ、地域課題を解決し住みやすいまちをつくり続ける一関青年会議所を共に創っていきます。

結びに

一関青年会議所に入会し、これまで家族や地域社会から得た数々の思い出や機会を通じて、自分が成長できたことに改めて気づくことができました。入会してからも様々な活動を通じて、多くの人々と関わり、メンバーたちの支えを受けながら学び、成長できたと実感しています。

その中で、一関には地域をより良く住みやすいまちにしたい、よりワクワクできるまちにしたいと活動している多くの人がいると知りました。

多くの人に関わり合い、「経済・暮らし・文化」の質を高め合うまち。

そんな、経済的にも豊かで、地域ごとに自立しながら支え合う持続可能なまちは、自信を持って子供たちに「帰っておいで」と言える一関になるはずです。

LET' S BE POSITIVE～新しい視点で、新しい未来を～」

捉え方で同じ物事でも、前向きにも、後ろ向きにもなります。

課題や、問題を前向きに捉え、また「失敗や困難も未来を作るために必要なもの」と前向きに捉え、未来を作ってきていきましょう！

一関のことを思い、明るい豊かな社会、つまり、持続可能な一関の実現に向け 68 年間先輩方が繋いできた想いや事業。脈々と受け継がれる魅力ある地域の歴史。

それらに、私たち現役メンバーや地域の皆様の想いを繋ぎ、そのバトンを次代へと繋いで参ります。

皆様の力をお借りしながら、全力で前進して参りますので、一年間よろしくお願いたします

【スローガン】



【基本理念】

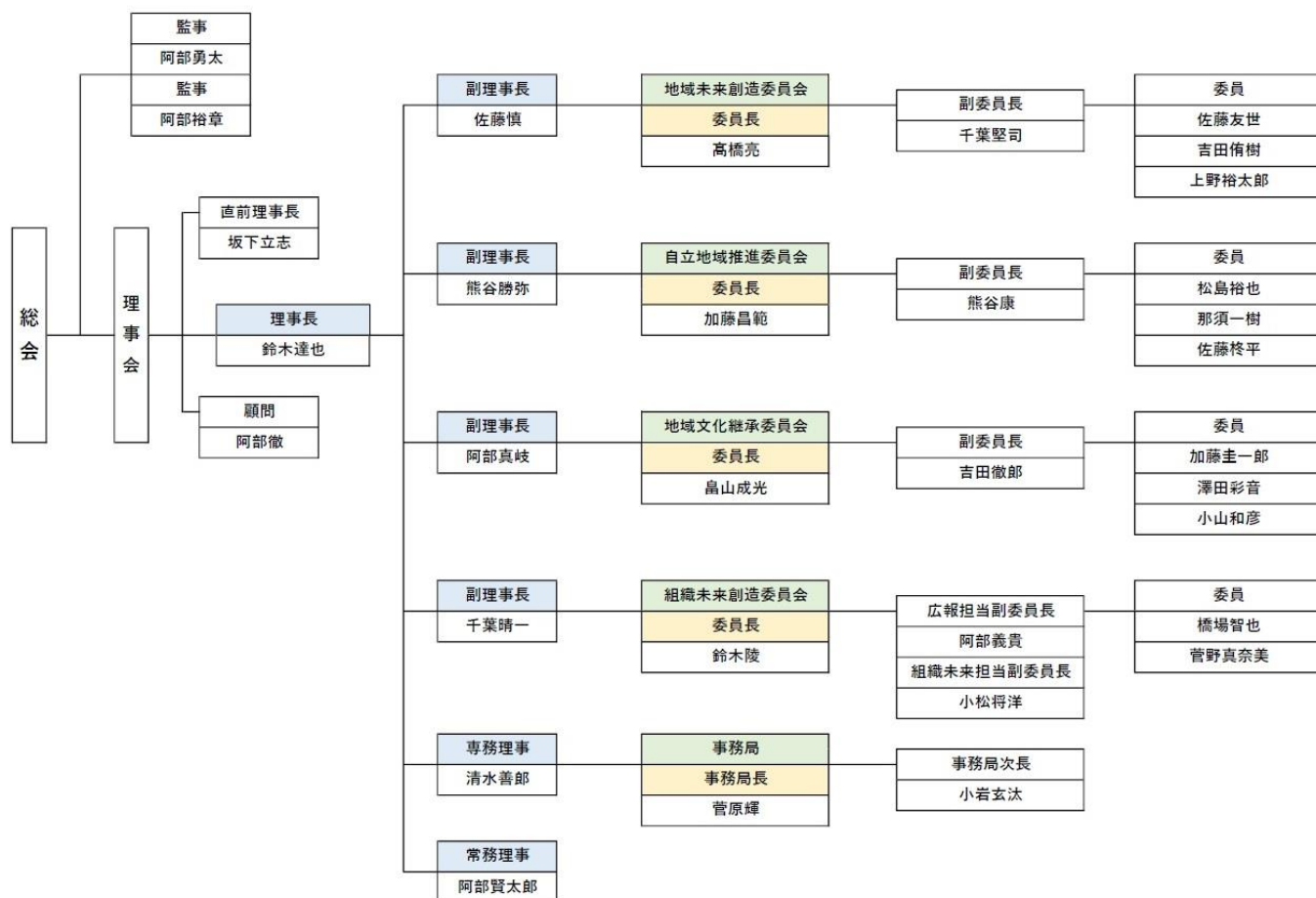
子供たちに「帰っておいで」と言える一関を創造する

【基本方針】

- ・ 地域資源を活用した経済循環の推進
- ・ 自立・分散型社会を実行する地域づくり
- ・ 「二代目時の太鼓大巡行」を中心とした文化の質を高めることによる
地域文化の発展・継承
- ・ 新たな仲間づくりと、多様なメンバーが自分らしさを発揮できる
持続可能な組織づくり

一般社団法人一関青年会議所

2024年度 組織図



一般社団法人一関青年会議所

2024年度 出向者

◆公益社団法人日本青年会議所

・顧問		阿部 徹 君
・地域経済活性化会議	委 員	坂下 立志 君
・渉外委員会	委 員	阿部 真岐 君
	委 員	千葉 晴一 君
	委 員	畠山 成光 君
	委 員	小岩 玄汰 君

◆公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会

・出向役員		阿部 徹 君
-------	--	--------

◆公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会

・顧問		阿部 徹 君
・副会長		坂下 立志 君
・監査担当役員		阿部 勇太 君
・岩手の未来創造委員会	委員長	阿部 賢太郎 君
・事務局	事務局次長	鈴木 陵 君
・岩手の未来創造委員会	幹 事	清水 善郎 君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	学長補佐	熊谷 勝弥 君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	学長補佐	菅原 輝 君
・ブロック大会運営委員会	委 員	澤田 彩音 君
・連携推進委員会	委 員	千葉 堅司 君
・総務広報委員会	委 員	阿部 義貴 君
・財政局	局 員	加藤 圭一郎 君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	加藤 昌範 君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	吉田 侑樹 君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	吉田 徹郎 君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	小岩 玄汰 君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	澤田 彩音 君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	千葉 周太郎 君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	小山 和彦 君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	菅野 真奈美 君
・いわて JAYCEE アカデミー委員会	塾 生	須田 景太良 君

< 2024年度 委員会事業計画 >

■ 地域未来創造委員会



担当副理事長 佐藤 慎

この度、2024年度地域未来創造委員会担当副理事長の役職をお預かりします佐藤慎です。

2024年度、鈴木達也理事長が掲げる「持続可能な地域の未来を創造」に向け、副理事長という役職の重さを受け止め、自身の経験を活かしメンバーの発展と成長の機会に真摯に向き合い、地域課題解決に向けて運動に取り組んで参ります。

一年間よろしくお願いいたします。

地域未来創造委員会事業計画書



担当委員長
高橋 亮

担当副理事長	佐藤 慎
担当委員長	高橋 亮
担当副委員長	千葉 堅司
担当委員	佐藤 友世
担当委員	吉田 侑樹
担当委員	上野 裕太郎

○ 委員会スローガン

enjoy～能動的に楽しく取り組む～

○ 基本方針

地域の人たちがワクワクする未来を創造できる持続可能な地域社会の創造と、各団体との連携による新たな仲間づくりの構築

○ 基本計画

- ・ 地域の価値を調査・計画し地域の強みを発揮する事業の実施・運営
- ・ 地域の価値を追求し、強みを活かした経済が循環する仕組み作りの実施・運営
- ・ まちづくり団体、地域企業、商業団体、若者団体との連携によるローカル SDGs の運動の推進

○ 抱負

一関市は人口減少が進んでおり、少子高齢化等の地域課題があります。地域未来創造委員会では地域の活力を維持していくために「地域における魅力ある資源や特色を活かした」付加価値の高いものづくりやサービスによる地域内の経済循環を推進し、人口減少下においても持続可能な地域にしていくために地域の稼ぐ力を高める運動を展開してまいります。

地域の資源や特性を活かした強みを発揮し、地域内の経済を循環する仕組みの構築を推進してまいります。

スケジュール	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会主管					○					○		

■ 自立地域推進委員会



担当副理事長 熊谷 勝弥

2024年度自立地域推進委員会担当副理事長の職をお預かりいたします熊谷勝弥です。

鈴木達也理事長が思い描く「子ども達に帰っておいで」と言える街づくりに向けて、担当委員会一丸となり地域の課題に取り組んでまいります。私自身も役職に関わらず、青年会議所から学ばなければならないことが数多くありますので、私自身が伝えられることをしっかり伝え、学ぶべきことをしっかり学び会全体で成長できるように尽力いたしますので、一年間よろしくお願いいたします。

自立地域推進委員会事業計画書



担当委員長
加藤 昌範

担当副理事長	熊谷 勝弥
担当委員長	加藤 昌範
担当副委員長	熊谷 康
担当委員	松島 裕也
担当委員	那須 一樹
担当委員	佐藤 柊平

- 委員会スローガン
「不撓不屈」～その先にある笑顔～
- 基本方針
各地域が連携し協力しあえるネットワークの構築
- 基本計画
 - ・自立・分散型社会を実現するための事業を企画・実施。
 - ・自立・分散型社会を市民に広げていくための運動の推進。
 - ・自立・分散型社会の実現に向けた各団体との連携の推進。

○ 抱負

少子高齢化が加速していく中、一関市は人口減少、地域コミュニティの場が減少し維持することが困難となっています。私たち委員会は一関市として自立・分散型社会を実現するためにも、一関市の有限な地域資源を活用しながら価値を生み出し、一関地域だけでなく対外的にも魅力を発信し、地域団体や行政などともにオープンな地域コミュニティを形成していきたいと考えております。この数年で急速に進んだデジタルツールによりワークライフスタイルが多様化してきております。

高齢化社会が進むことによってUターンを余儀なくされるケースもあると思いますので、そういったケースでもネットワーク環境や地域コミュニティを維持出来ていれば安心して暮らせる地域になります。当委員会は1年間地域がもっと安心して暮らしやすく活気のある地域づくりを目指して活動していきます。

スケジュール	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会主管			○						○			

■地域文化継承委員会

担当副理事長 阿部 真岐



2024年度地域文化継承委員会担当副理事長の任を預からせていただきます阿部真岐です。
今年度は地域の文化の質を高め、地域文化を継承していくための運動を展開してまいります、
時の太鼓をはじめとした地域文化の魅力を若い世代に伝えるとともに、一関夏まつりで行う
「二代目時の太鼓大巡行」に参加する方の増加を図ってまいります。
委員長、副委員長と連携を取りながら運動に邁進してまいります。一年間よろしくお願いたします。



地域文化継承委員会事業計画書

担当委員長
畠山 成光

担当副理事長	阿部 真岐
担当委員長	畠山 成光
担当副委員長	吉田 徹郎
担当委員	加藤 圭一郎
担当委員	澤田 彩音
担当委員	小山 和彦

- 委員会スローガン
共感の力で未来へ繋ぐ～Let's enjoy～
- 基本方針
文化の質を高め、地域文化を継承する
- 基本計画
 - ・地域住民を巻き込み、文化活動への積極的な参加を奨励し、共感を生み出す事業の実施
 - ・学校や地域団体と協力し、地域文化を継承していく仕組み作りの実施
 - ・二代目時の太鼓大巡行に興味を持ち、参加したいと思える事業の実施
- 抱負

地域の歴史や文化を継承し、次世代に受け継がれるような魅力的な仕組みを創出することを目指します。若い世代に、伝統と文化に対する興味と誇りを持ってもらいたいと思います。

また、地域の中学生と高校生に参加の機会を提供することで、新たな文化の担い手を発掘し、彼らの可能性を最大限に引き出すことができると思います。さらに、一関夏まつりや二代目時の太鼓大巡行をより多くの地域住民に楽しんでもらい、コミュニティの結束を高める助けになることを目指します。

この事業を通じて、地域文化の継承と地域コミュニティの活性化に貢献し、次代への遺産を守り育てる使命感を持ち活動いたします。

スケジュール	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会主管				○				○				

■組織未来創造委員会



担当副理事長 千葉 晴一

この度、2024 年度組織未来創造委員会の担当常任理事の職をお仰せつかりました千葉晴一です。担当常任理事としての職務と責任を果たしながら、委員会メンバーと共に、新入会員をサポートし、共に活動をする仲間として迎え入れる環境を整え、多様なメンバーが安心して活躍できる組織の仕組みを確立していけるよう青年会議所活動、運動に取り組んで参ります。一年間よろしくお願い致します。

組織未来創造委員会事業計画書



担当委員長
鈴木 陵

担当副理事長	千葉 晴一
担当委員長	鈴木 陵
担当副委員長	小松 将洋
担当委員	阿部 義貴
担当委員	橋場 智也
担当委員	菅原 真奈美

- 委員会スローガン
「僂力協心（りくりよくきょうしん）」～メンバー全員が同じ目的へ～
- 基本方針
明るい豊かな地域を作るための持続可能な組織になる
- 基本計画
 - ・志を同じくする若者に JC 活動を知ってもらい、共感してもらう事業の実施
 - ・女性会員、35歳以下の若者が集まる事業の実施
 - ・新規入会者が今何をすべきかがわかるマニュアル作成の実施
 - ・持続可能な組織になるための環境改善の実施
 - ・会員拡大のリスト整理及び声掛けの実施

○ 抱負

現在の一関青年会議所は、活動しているメンバーとそうでないメンバーがはっきりと分かれています。それはメンバー個々の負担が大きいためと考えております。そのため、会員拡大をして少しでも個々の負担を減らすことと、メンバーへの思いやりが必要と考えます。

この度委員長を務めさせていただくにあたり、拡大目標達成はもちろんのこと、LOMメンバー全員がまだ見ぬ志を同じくする仲間に「一関 JC 最高だから入りなよ」と勧められるような組織にするべく1年間活動いたします。

スケジュール	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会主管		○										

■事務局

専務理事
清水 善郎



常務理事
阿部 賢太郎



事務局長
菅原 輝



事務局次長
小岩 玄汰



■監事



監 事
阿部 勇太

2024年度はJC ライフのラスト・イヤーとなります。
今まで青年会議所の活動で学んできた事や経験を LOM、そしてメンバーに伝えていける様に一年間精一杯務めさせていただきます。
1年間どうぞよろしくお願いいたします。



監 事
阿部 裕章

今年度監事の職をお預かりするにあたり、人を、そして人の仕事を大切に、メリハリある組織運営に微力ながら貢献できればと思います。
1年間どうぞよろしくお願いいたします。

■ 出向者



阿部 徹

公益社団法人日本青年会議所 顧問
東北地区協議会 出向役員
岩手ブロック協議会 顧問

今までの青年会議所での経験と人の繋がりを活かし、地域活性化に貢献する事業や全国の LOM の支援をしていくよう最後まで尽力していきます。

また、最後にお世話になった一関青年会議所や後輩たちへ、今までの経験と人の繋がりを残していきたいと思えます。

最後の化石となりつつある「OLD JAYCEE」の姿を最後まで全うして参ります。



公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
副会長 坂下 立志

2024 年度は、岩手ブロック協議会いわて JAYCEE アカデミー委員会担当副会長として出向させていただきます。これまで LOM メンバーや家族に支えられ、多くの役職にチャレンジさせていただき、成長の機会を頂戴しました。いままでの恩を返すべく当 LOM を含めた岩手ブロック内のメンバーの育成に関わる機会をいただけたのだと思っております。ラスト一年にはなりますが、多くの方の成長に寄与できるように努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
監査担当役員 阿部 勇太

公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会 2024 年度監査担当役員として出向させていただきます。

予算執行と決算が適切に処理されているかを確認し、ブロック協議会の事業が円滑に実施されるようにサポートしてまいります。よろしくお願いいたします。



公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
岩手の未来創造委員会 委員長 阿部 賢太郎

本年、岩手の未来創造委員会委員長として2つの事業に取り組みます。岩手ブロック大会のメインフォーラムを担当し、自らの行動により他者の行動を巻き起こす「行動を呼ぶリーダー」が生まれる事業を行います。また、JCI 花巻の直前理事長である佐藤貴哉君が日本本会の議長として出向している地域経済活性化会議と連携し、岩手県内にインバウンド推進を通じた地域経済活性化を起こすための事業を計画しております。応援、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
事務局 事務局次長 鈴木 陵

2024年度事務局次長として出向させていただきます。初めての出向になりますが、1つでも多くの学びを得て、その学びをLOMへ還元できるよう努めて参りますので一年間どうぞ宜しくお願い致します。

報 告 編

〈2023 年度理事長報告〉



一般社団法人一関青年会議所
2024 年度理事長 坂下 立志

まずは地域の皆様方をはじめ、関係諸団体、会員の企業とそこご家族と多くの方々に我々一般社団法人一関青年会議所の活動・運動に対し、多大なるご理解とご協力を賜りましたことを、心より厚く御礼申し上げます。

2023 年度は、多くの皆様方のお力添えのおかげをもちまして、すべて事業を滞りなく終えることができました。

2023 年度は、人口減少により減り続ける生産年齢人口に少しでも歯止めをかけるべく、ひと・しごと・まちの 3 つの観点から若者の地域定着を促し、若者が定着し人が集まり賑わう地域を創造するために、「We do first. ～彩り豊かな地域を目指して～」をスローガンに掲げ、なにをやるにしてもまずは地域のリーダーたる自分たちがやろう。そして、様々な人が輝ける組織、地域になろうという思いを持ち事業を構築してまいりました。

本年は、地方初開催である TGTeen の開催、第 70 回目を迎えた一関夏まつりなど地域としても大きな節目となる年となり、当青年会議所としても大きな経験を積むことができました。

【ひと 若者の活躍を推進し地域に残るきっかけをつくる】

若者活躍社会創造委員会では、若者が地域を知り一体となって活躍できる環境づくりのために、意見交換を行うことで若者・地域双方の求めるものを明確にし、若者が考える一つの課題である地域を知る、情報を発信するというテーマに実際に地域をめぐるフィールドワークを開催しました。また、本年の集大成として一関市、商工会議所のお力添えをいただき、高校と地

域をつなぐ「地域教育連絡会議」を発足しました。この連絡会議を足掛かりに毎年行われる探求学習に地域との接点をもたせることで、恒久的に子供たちが地域と触れる機会を作り続けていく仕組みができました。

【しごと 価値デザインの推進で輝く地域へ】

価値デザイン委員会では、生産年齢人口減少による地域内消費減少への対策のために、内閣府が推奨する価値デザインの考え方の普及促進を行いました。実際地域内で新たな価値創造に取り組む事業者と共感する協力者をつなぎ、さらに価値デザインの考え方を理解し、自社事業にも取り入れるきっかけをつくる事業を行うことができました。

【まち 新たな交流が作り上げる夏まつりの新しい価値】

郷土文化交流委員会では、70回目の節目を迎える一関夏まつりに新たな交流人口を増やすべく、行政の元気な地域づくり事業として福島県三春町、宮城県岩沼市との地域間交流事業を開催、夏まつり当日にも田村青年会議所、あぶくま青年会議所メンバー及び三春町の郷土芸能の巡行参加、こども食堂による昼食の導入、白A様によるプロジェクションマッピング放映など一関夏まつり70周年の節目に彩りを添える二代目時の太鼓大巡行を執り行うことができました。

結びに、2023年度のJC運動に関わっていただいた多くの皆様と日頃より現役に対するご理解、ご協力と多大なるご支援をいただいております佐々木一嘉会長をはじめとする一関青年会議所OB・OGの皆様、そして一緒に運動を創り上げてくれた各委員長とメンバーに心より感謝を申し上げ、理事長報告とさせていただきます。1年間、ありがとうございました。

〈2024 年度会務報告〉

2023年1月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4				
5	一関市賀詞交歓会	ペリーノホテル一関		坂下理事長
	第1回正副理事会議	WEB	19:30-22:00	正副理義会議メンバー
6				
7	1月例会「新年交賀会」	ペリーノホテル一関	10:00～ 19:30	
8				
9				メンバー
10				
11				
12	第1回常任理事会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	常任理事会メンバー
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19	京都会議	京都		メンバー
20	京都会議	京都		
21	京都会議	京都		
22	京都会議	京都		
23				
24				
25				
26	第1回臨時理事会議	ZOOM	19:30-22:00	理事会メンバー
27				
28	一関青年会議所OB会新年会			正副メンバー
29				
30				
31	第1回理事会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	理事会メンバー

2023年2月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2	第2回正副理事会議	ZOOM	19:30-22:00	正副理事会メンバー
3				
4	岩手ブロック新春のつどい	花巻	10:00-20:00	メンバー
5	2月例会ファシリテーター講習	なのはなプラザ研修室	10:00-14:00	メンバー
6				
7	TGCteenイベント部会			清水副理事長、鈴木達也委員長
	第2回常任理事会	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	常任理事会メンバー
8				
9				
10				
11				
12				
13	2月例会リハーサル			メンバー
14				
15				
16				
17				
18	2月例会「ミライツクリカフェ」	なのはなプラザ2階	18:00-21:00	メンバー
19				
20	第2回理事会	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	理事会メンバー
21				
22				
23				
24	一関青年会議所2月定時総会	なのはなプラザ大会議室	18:30-19:30	
25	岩手ブロック協議会第2回委員会議所会議	北上		坂下理事長
26				
27	議事構築セミナー	なのはなプラザ2階	18:30-20:00	理事会メンバー
28				

2023年3月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2	第3回正副理事会議	ZOOM	19:30-22:00	正副理事会メンバー
3				
4				
5				
6				
7	第3回常任理事会議	なのはなプラザ3階	19:30-22:00	常任理事会メンバー
8				
9				
10	国際ハーフマラソン大会実行委員会	ユードーム	13:30-15:00	メンバー
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24	第3回理事会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	理事会メンバー
25				
26				
27	一関市創造若者協議会事業協力	なのはなプラザ研修室	14:00-16:00	メンバー
28				
29	ど市実行委員会	商工会議所	18:30-20:00	
30				
31				

2023年4月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4				
5	第4回正副理事会	ZOOM	19:30-22:00	正副理事会メンバー
6				
7				
8				
9				
10				
11	第4回常任理事会	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	常任理事会メンバー
12				
13				
14				
15				
16				
17	かわまちづくり協議会ツアー参加	越井川河川敷	10:30-12:00	清水副理事長
18				
19	TGCteen推進委員会	なのはなプラザ研修室	16:00-17:00	
20				
21				
22	3月例会「チャレンジ応援フェス」	ペリーノホテル一関		
23				
24	4月例会事前打合せ	ZOOM		メンバー
25				
26				
27				
28	第4回理事会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	
29	岩手ブロック協議会会員会議所会議	ペリーノホテル一関	13:00-17:00	坂下理事長、メンバー
30				

2023年5月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4				
5	第5回正副理事会議	ZOOM	19:30-22:00	正副理事会メンバー
6				
7				
8				
9	第5回常任理事会	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	常任理事会メンバー
10				
11				
12				
13				
14	4月例会「一関若者フィールドワーク」	一関市内	9:00-17:00	メンバー
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22	ILC推進協議会会議	一関商工会議所	10:00-12:00	
23				
24				
25	NEC跡地検討会議	なのはなプラザ	19:00-21:00	メンバー
26	第5回理事会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	メンバー
27				
28				
29				
30				
31				

2023年6月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1	第6回正副理事会議	ZOOM	19:30-22:00	正副理事会メンバー
2				
3	5月例会「一関藩田村京当主と行く！姉妹都市三春町旅さんぽ」	福島県三春町	8:00-18:00	メンバー
4				
5				
6	第6回常任理事会	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	常任理事会メンバー
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19	一関ボランティアセンター運営委員会	一関社会福祉協議会	13:30-14:30	
20				
21				
22	TGCteenイベント部会	なのはなプラザ研修室	19:00-20:30	
23	NEC跡地ワークショップ	なのはなプラザ2階	18:30-20:30	
	第6回理事会	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	理事会メンバー
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30	NEC跡地ワークショップ	なのはなプラザ2階	18:30-20:30	

2023年7月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3	第7回正副理事会議	ZOOM	19:30-22:00	正副理事会メンバー
4				
5				
6	第7回常任理事会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	常任理事会メンバー
7	NEC跡地ワークショップ	なのはなプラザ2階	18:30-20:30	
8	岩手ブロック大会（6月例会）	花巻市	9:00-21:00	メンバー
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22	サマーコンファレンス	横浜市		メンバー
23	サマーコンファレンス	横浜市		メンバー
24				
25	第7回理事会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	理事会メンバー
26				
27				
28	一関青年会議所8月定時総会	古戦場	18:00-19:00	メンバー
29				
30				
31				

2023年8月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1	麩井川水天宮例大祭	麩井川水天宮		坂下理事長、夏まつり委員会
2	7月例会「お天気まつり」	クラストン	18:00-21:00	メンバー
3	第8回正副理事会	ZOOM	19:30-22:00	正副理事会メンバー
4	夏まつり二代目時の太鼓大巡行PR動画放映	なのはなプラザ	19:30-21:00	メンバー
5	8月例会「二代目時の太鼓大巡行」	一関夏まつり会場等	8:30-20:00	メンバー
6	一関子供七夕神輿	一関文化センター	8:00-10:00	メンバー
	一関夏まつりグラウンドフィナーレ手伝い	麩井川河川敷	18:00-22:00	メンバー
7				
8	第8回常任委員会	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	常任理事会メンバー
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17	第1回常任理事予定者会議	東北ウエノ協事務所	19:30-22:00	2024年度常任理事予定者会議メンバー
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25	第8回理事会	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	理事会メンバー
26				
27				
28				
29	第1回理事予定者会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	2024年度理事予定者会議メンバー
30				
31				

2023年9月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1	東北青年フォーラムウエルカムナイト	北上市 リサーチェ	19:00-22:00	板下理事長、メンバー
2	東北青年フォーラム	北上市	9:00-21:00	メンバー
3	東北青年フォーラム	北上市	9:00-12:00	メンバー
4				
5				
6				
7	第9回正副理事会	ZOOM	19:30-22:00	正副理事会メンバー
8				
9	第1回理事長杯ゴルフコンペ	南岩手カントリークラブ	8:30-14:00	メンバー
10				
11	第2回常任理事予定者会議	東北ウエノ様事務所	19:30-22:00	2024年度常任理事予定者会議メンバー
12				
13	第9回常任理事会	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	常任理事会メンバー
14				
15	一関八幡神社例大祭	一関八幡神社	10:00-11:00	清水副理事長
16				
17	9月例会「稼げる故郷を未来に残すには～地域づくりやビジネスに向けた価値デザインの活かし方を知ろう」	川崎市民センター	9:00-15:00	メンバー
18				
19				
20	第2回理事予定者会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	2024年度理事予定者会議メンバー
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28	第9回理事会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	理事会メンバー
29				
30				

2023年10月

日	行動内容	場所	時間	対応者
2				
3				
4				
5	第10回正副理事会議	ZOOM	19:30-22:00	正副理事会メンバー
6	全国大会	東京		メンバー
7	全国大会	東京		メンバー
8	全国大会	東京		メンバー
9	第3回常任理事予定者会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	2024年度常任理事予定者会議メンバー
10	第10回常任理事会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	常任理事会メンバー
11				
12				
13				
14	大船渡青年会議所55周年式典	大船渡プラザホテル		メンバー
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23	第3回理事予定者会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	2024年度理事予定者会議メンバー
24	第10回理事会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	理事会メンバー
25				
26	一関市議会議員と市民の懇談会	一関市役所議会議棟	19:00-20:30	メンバー
27				
28	右手ブロックアカデミー開校式	奥州市		メンバー
29	右手ブロック 会員会議所会議	水沢グランドホテル		熊谷副理事長（代理出席）
30				
31				

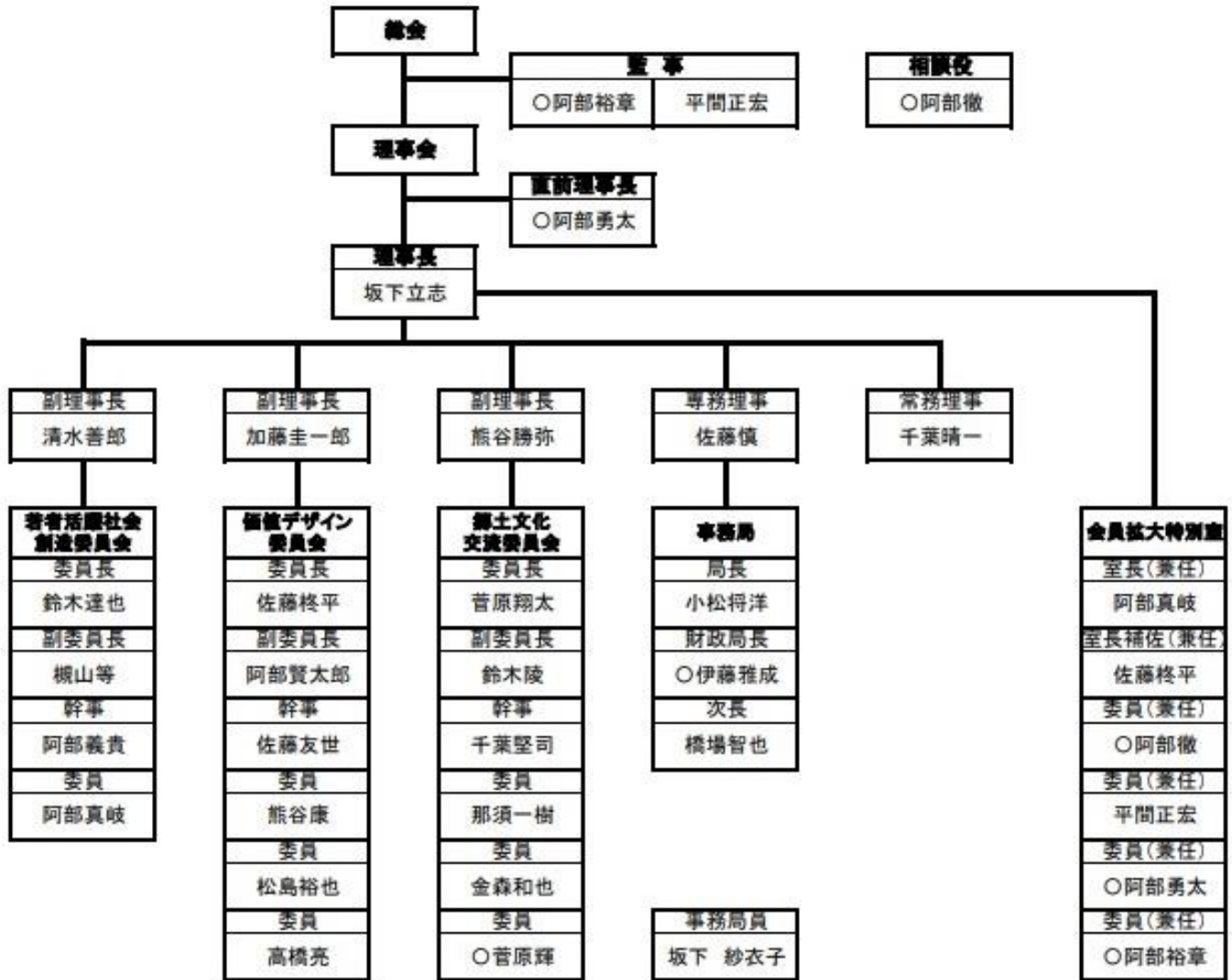
2023年11月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1				
2	第11回正副理委会議	ZOOM	19:30-22:00	正副理事会メンバー
3				
4	阿部徹君を励ます会	ペリーノホテル一関	17:00-21:00	メンバー
5				
6	第4回常任理事予定者会議	東北ウエノ様事務所	19:30-22:00	2024年度常任理事予定者会議メンバー
7				
8				
9	第1回会員会議所予定者会議	大船渡市	17:00-21:00	鈴木理事長予定者、清水専務理事予定者
10				
11	若手ブロック 会員会議所会議	花巻市	16:00-21:00	メンバー
12				
13				
14	世界会議～11/18	スイス ジュネーブ		阿部徹相談役
15				
16	10月例会「若者が活躍する社会のために～地域連携教育について考える～」	一関文化センター 小ホール	17:00-20:30	メンバー
17				
18				
19				
20	第4回理事予定者会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	2024年度理事予定者会議メンバー
21				
22				
23				
24	第11回理事会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	理事会メンバー
25				
26				
27	11月例会「次年度アワー～OB先輩から学ぶJCで得られる成長の機会～」	ホテル松の薫一関	17:30-21:00	メンバー
28				
29				
30				

2023年12月

日	行動内容	場所	時間	対応者
1	東北地区協議会第1回委員会会議所予定者会議	秋田県湯沢市	10:00-12:00	鈴木理事予定者、清水専務予定者
	東北地区協議会第3回委員会会議所	秋田県湯沢市	13:30-16:00	坂下理事長、佐藤慎専務
	一関青年会議所OB役員会	雲竜		坂下理事長、メンバー
2				
3	12月例会「卒業式」	ホテル松の薫一関	15:00-21:00	メンバー
4	第5回常任理事予定者会議	ZOOM	19:30-22:00	2024年度常任理事予定者会議メンバー
5				
6				
7				
8				
9	第2回委員会会議所予定者会議	盛岡グランドホテル	10:00-12:00	千葉晴一副理事長予定者（代理）
	第12回委員会会議所会議	盛岡グランドホテル	13:30-16:30	清水副理事長（代理）
10				
11				
12				
13	第12回常任理事会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	常任理事会メンバー
14				
15				
16				
17				
18	第5回理事予定者会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	2024年度理事予定者会議メンバー
19	八千代青年会議所引継ぎ会	千葉県八千代市		坂下理事長、鈴木理事予定者、阿部徹相談役
20	一関市長訪問			坂下理事長、鈴木理事予定者、清水専務予定者、菅原翔太委員長
21				
22	第12回理事会議	なのはなプラザ研修室	19:30-22:00	理事会メンバー
23	一関青年会議所12月定時総会	ペリーノホテル一関	18:00-19:00	メンバー
24				
25				
26				
27				
28	時の太鼓納式	一ノ関駅	11:00-11:30	熊谷副理事長、菅原翔太委員長、メンバー
29				
30				
31				

2023 年度組織図



○ 出向者
※副委員長までを理事とする

〈委員会事業報告〉

公益社団法人日本青年会議所 2023年度

報告書

カテゴリー

グループ名	会誌・委員会名	役職名	担当者名
	事務局	事務局長	小松 将洋
事業名	1月例会「新年交賀会式典の部」		公益事業番号
開催日時	2023年1月7日(土) 10:00~16:30	開催場所	ベリーノホテル
参加人数		事業予算	
対内 19名 対外 109名 合計 128名		54000 円	
テーマ	新年交賀会の企画・運営		
事業内容(200字)	若者活躍できる一関創造に向けた内容の精査(200字)		
一関青年会議所は明るい豊かな社会の実現を最上位目的とし、より良い変化を起こすために日々運動を行っています。しかしながら、1年間で組織が変わる団体という特徴もあり、運動の内容は年度ごとに変化します。一関青年会議所への理解と共感を得るためには、今年度の一関青年会議所の活動内容を広く周知する必要があります。そこで、一関青年会議所の2023年度の理念・方針を理解し、運動に共感していただくことを目的とし新年交賀会式典の部を開催致しました。理事長坂下立志君の決意表明は始めとして各種委員会の1年間の方針を発表できました。事業後アンケートからも読み取れるように多くの体外の各種団体に今年の一関青年会議所の取り組み運動を理解いただく事業となりました	今年度は昨年度交流のあった、Φterase,Creo creators,Imanectをはじめとする一関価値創造若者協議会に新年交賀会に参加していただきました。また、式典には団体の代表だけでは発信力のある一関価値創造若者協議会のメンバーに可能な限り出席頂きました。		
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)	若者活躍できる一関創造に向けた結果報告(400字)		
一関市長 佐藤 善仁様(祝辞) 岩手県南広域振興局一関総務センター所長 藤原 典光様(祝辞) 一関青年会議所08会 会長 佐々木一嘉先輩(祝辞) 各種団体関係者 29名 一関青年会議所08先輩の皆様 18名 各地青年会議所関係者 57名 一関価値創造若者協議会 5名	今年度の一関青年会議所の運動の方針を一関価値創造若者協議会と共有できたことにより、各種委員会と一関価値創造若者協議会のメンバーが協力体制を取りやすい環境を作ることができました。それにより一関価値創造若者協議会が起点となり、一関で活躍できる若者が増えていくと考えます。		



一般社団法人一関青年会議所

報告書

カテゴリー

グループ名	会誌・委員会名	役職名	担当者名
	若者活躍社会創造委員会	委員長	鈴木 達也
事業名	2月例会「ミライツクリカフェ〜若者×地域で新たな価値を想造しよう!〜」		公益事業番号
開催日時	2023年2月18日 17:30~20:30	開催場所	なのはなプラザ2階にぎわい創造センター
参加人数		事業予算(決算額)	
対内 21名 対外 45名 合計 64名		76,781 円	
テーマ	若者が地域と一体となって活躍できる地域づくりに対する意識変容		
事業内容(200字)	全ての人がひとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)		
若者が地域と一体となって活躍し、好循環を生むための環境づくりのための意識変容促進のために、昨年事業の発表と、ワールドカフェによる交流という手法で行いました。ワールドカフェでは7つのテーマに基づき、メンバーがファシリテーターとなり前向きな意見を集め活発な意見を元に未来像作りを行いました	地域・行政・学生が議論する環境を作ることで、相互理解を深江若者が地域と一体となって活躍し、好循環を生むための環境づくりのための意識変容促進を促します。また、繋がりをすることで今後活躍していくための土台を作ります		
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)	全ての人がひとが笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)		
1)関市役所(女性活躍推進室・若者活躍推進室・子育て支援課(若者・女性活躍に関しての連携)) 2)市内高校・高専・短大(学生参加者・事業実施) 3)一関価値創造若者協議会会員(学生参加推進・事業実施) 他 4)市内企業(若者活躍応援) 5)関市役所(女性活躍推進室・若者活躍推進室・子育て支援課(若者・女性活躍に関しての連携)) 6)市内高校・高専・短大(学生参加者・事業実施) 7)一関価値創造若者協議会会員(学生参加推進・事業実施)	実際に若者と、地域の方が共に考えた“ワクワクする一関像”と現状把握を行い、具体的な問題点・課題点を見つけ、実際に若者と解決に向けた事業を実施することで、若者が活躍する仕組みや実績を作ると共に、今回でできた繋がりを活かせるような運動を行っていきます。上記で見つけた未来像・現状から見つけた問題・課題点を関係各所へのフィードバック・提言を行います 地域・行政と若者が未来を一緒に考えることにより、お互いの理解が深まり、若者が活躍するための意識が醸成することができたと考えます。		
その他提出物			



グループ名	会費・委員会名	役職名	担当者名
	価値デザイン委員会	委員長	佐藤 終平
事業名	3月例会 チャレンジ応援フェス～“推し”のプロジェクトを見つけよう！～		公益事業番号
開催日時	開催場所	参加人数	
2023年04月23日(土) 15:00～18:00	ペリーノホテル一関 2F 西の間 (〒021-0051 岩手県一関市山目三反田179)	対内 19名 対外 27名 合計 36名	事業予算 114,941 円
テーマ	3月例会 チャレンジ応援フェス～“推し”のプロジェクトを見つけよう！～		
事業内容(200字)	全ての人びとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)		
「様々な地域課題解決につながる先進的(脱平均)なプロジェクトを行う、もしくは行おうとしている人」と、「その人たちを応援したい人」がマッチング(融合)することにより、地域課題解決のプロジェクトに関わる人の裾野が広がり(共感)、地域課題解決の担い手を増やす事業とする。 「脱平均」しているプレゼンターが、「共感」を生んで自らのプロジェクトを共創できる新たな人との「融合」が生まれる場づくりを行い、地域に「価値デザイン」が広がるきっかけをつくる。	地域内にチャレンジを行う人を応援する機会や環境が生まれ、新たなチャレンジが生まれやすい地域の土壌づくりが促進されます。 そして、価値デザインの考え方が普及するとともに、新しい人との繋がりや出会いが生まれます。地域の中のプロジェクトに関わることで、一関・平泉地域でのライフスタイルや活動が充実する人が増えます。		
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)	全ての人びとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)		
プレゼンター4組(5名) ・ 芦 謙二 氏(芦農園 代表) ・ 佐藤 瑠一 氏(岩手大学農学部・食料生産環境学科 3年) ・ 山崎 裕也 氏(一関市地域おこし協力隊) ・ 千葉なつみ 氏(美容室 KIKORI) ・ 小金森志能 氏(保育園)	一関市は急速に進む人口減少により生じる様々な地域課題に対応していくため、地域の稼ぐ力を高め、仕事と豊かな暮らしを創出し、市内外から人が集うまちを実現していくことが求められています。 本事業では、様々な地域課題解決につながる先進的(脱平均)なプロジェクトを行っている人がプレゼンテーションを行い、一般参加者が対話や交流を深めることで、その人やプロジェクトに共感し、応援する人の輪が広がる事業となりました。 この事業では、地域課題解決につながる先進的(脱平均)なプロジェクトを行っている人と、そのプロジェクトを応援・推進し、発展させることに繋げる機会ができたと考えています。		
その他提出物	無し		



グループ名	会費・委員会名	役職名	担当者名
	若者活躍社会創造委員会	委員長	鈴木 達也
事業名	4月例会「一関若者フィールドワーク～一関の魅力を再発見しよう！～」		公益事業番号
開催日時	開催場所	参加人数	
2023年5月14日 10:00～17:00	一関文化センター、市内各地	対内 17名 対外 11名 合計 28名	事業予算(決算額) 83,745 円
テーマ	若者が主体となり地域の現状と理想のギャップを発見。若者の行動量を増やしてもらうために活動の機会と仲間づくりの機会を創出。		
事業内容(200字)	全ての人びとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)		
2月例会「ミライズリカフェ」で出された理想の未来像を実現するために、実際に地域の魅力や現状に触れ地域の魅力と課題を発見すると共に、今まで行動を起こすことが出来なかった学生にも参加してもらうために、フィールドワークという手法を実施しました。 一関地域を5つのエリアに分け、コース毎に班を作り、若者主体で1日のコースプランを立てて訪問しました。訪問先では、写真の撮影や魅力発見シートに記入を行い、実施後に訪問したスポットの情報をまとめた一関価値発見マップを作成しました。	参加者が自分達で地域のことを調べ、現場に行き見聞きすることで、情報と行動量の双方を得ることが出来ます。また、現状を知ることで、問題・課題の発見・解決に繋がります。地域と若者がそれぞれの相互交流が出来ます。コミュニティを超えた行動の増加により活躍する人材の増加につながります。		
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)	全ての人びとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)		
1 一関市役所(女性活躍推進室・若者活躍推進室・観光物産課 他)(ルート作成や、取り組みについてのヒアリング) 2 市内高校・高専・短大(参加・事業構築) 3 一関価値創造若者協議会会員(参加・事業構築) 他 4 一関市内企業(昼食・企業、商店訪問) 5 一関市観光協会(市内観光資源についてのヒアリング・後援)	フィールドワークを通して、自分たちが住み暮らす一関地域の魅力や強み、弱みについて深く考える機会を創出することが出来、参加した若者からは、若者目線での意見や課題などが多く見つけられました。 参加者からは、今まで知らなかった場所や新たな魅力に触れる機会となったというお声をいただきました。 本事業で現地に行ったからこそ発見した新たな課題について、若者が地域と携わり課題の解決につなげていくための取り組みも行って参ります。		
その他提出物			



グループ名	会議・委員会名	役員名	担当者名
	郷土文化交流委員会	委員長	菅原 翔太
事業名	5月例会 郷土文化継承・都市間交流推進事業		公益事業番号
開催日時	開催場所	参加人数	事業予算
2023年 6月 3日 (土) 7:00~19:35	福島県三春町	対内 18名 対外 51名 合計 69名	169,556 円
テーマ	～一関藩田村家当主と行く！姉妹都市三春町旅さんぽ Historical Bond Tours～		
事業内容(200字)	全ての人がひとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)		
田村家様をはじめとする歴史的ゆかりや姉妹都市三春町とのつながりなどを学び、体験するため、田村任願様及び市内の高校生等の若者たちとともに三春町を訪問いたします。 当日は、歴史的にゆかりの深い自治体情報のプレゼンや三春町内の企業見学、福聚寺をご住職様の講話などを通じて、参加者及び自治体間の交流を深めてまいりたいと考えております。	いちのせき夏まつり二代目時の太鼓大巡行の参加者増加を見据え、夏まつりへの参加誘導を主眼において一貫性、運動性を持った事業構築ができたことと自己評価している。 また、事業構築において、新たな手法に「市との共催、元気な地域づくり事業の活用」、「県境を越えて他LOMとの協力による事業実施」を行い、今後の事業構築のあり方の道筋を作ったと考えています。		
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)	全ての人がひとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)		
・一関市役所(交流推進課) ※立案・企画・周知・事業補助 ・福島県三春町役場 ※立案・企画・周知・事業補助 ・一般社団法人田村青年会議所 ※立案・企画・周知・事業補助 ・一般社団法人あぶくま青年会議所 ※立案・企画・周知・事業補助 ・田村任願様 ※講師(アドバイザー) ・福聚寺玄侘宗久様 ※講師、見学先 ・株式会社福島ガイナ ※企業見学先 ・三春町まちづくり公社 ※企業見学先	自分たちが住み暮らすまちの魅力を主にプレゼンテーションを行い、三春町、岩沼市の青年会議所メンバーにおいても、一関市との繋がりを軸としたPR紹介を行ったことから、参加者に一関市の誇りに気づかせることができたと思えます。 また、福聚寺の住職様の講話においても、一関市の礎となった田村のお殿様の良き人柄をご紹介いただいたことから、参加者に一関市の良いイメージを持っていただけたものと認識しています。加えて、一般参加者を5-6人程度のグループに分け、青年会議所メンバーがアテンドしたことにより、学びをより深めてもらうことができましたと考えています。 一方で、イメージが良くならないかたもおり、わがまちバンザイ PRにおけるプレゼンの質に差があったことが要因であることから、対外向けのプレゼン資料の作り方にはさらなるブラッシュアップが必要であったと反省しているところではありますが、一関に対するイメージが良くなったとアンケートで回答した人が約9割で目標値を超えたことから、事業目的は達したものと考えます。		
その他提出物	なし		



・ 6月例会：岩手ブロック大会、7月例会：お天気まつり アーカイブ無し

グループ名	会議・委員会名	役員名	担当者名
	郷土文化交流委員会	委員長	菅原 翔太
事業名	8月例会 二代目時の太鼓大巡行「～彩・絆とともに未来へ繋ぐ～」		公益事業番号
開催日時	開催場所	参加人数	事業予算
2023年 8月 4～5日 (金・土) 18:00～21:55 8:00～21:30	一関市内	対内 28名 対外 172名 合計 196名	1,189,061 円
テーマ	8月例会 二代目時の太鼓大巡行「～彩・絆とともに未来へ繋ぐ～」		
事業内容(200字)	全ての人がひとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)		
一関夏まつり70周年、時の太鼓45周年(二代目時の太鼓大巡行40周年)の節目を契機に、新たな取り組みとして、地域間交流、エンターテインメントの提供を、いちのせき夏まつり及び二代目時の太鼓大巡行に付加価値(彩)として加えました。 また、多様な関係団体、企業、個人等の参加を促し、二代目時の太鼓大巡行の参加者に対し、一関で住み暮らし、活躍できるイメージ、可能性に気づきを与える活動と運動を展開しました。 このほか、子どもや若者などが楽しみながら郷土文化を学び、体験し、人と人、地域と地域の交流を通じて、絆を深め、一関市に訪れる交流人口の増加、さらには一関市と多様な関係人口の増加に繋がる活動、運動を展開しました。	一関市に住み暮らして良かった、これからも一関市に関わりたいなど一関市への愛着心の醸成に繋がるとともに、交流人口の確保、増加を契機として、関係人口、定住人口の増加に繋がるものと考えます。 また、それらにより、一関市の最大の課題でもある人口減少への歯止めの一助になるとともに、地域に変化を生み出す人材、地域づくりの担い手となる人材の発掘、創出に繋がるものと考えます。		
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)	全ての人がひとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)		
①二代目時の太鼓大巡行で連携するパートナー 時の太鼓映画会、炎舞会、田村家、一関市役所、一関商工会議所、一関市観光協会、一関青年会議所の5会、すずめ通り祭連、長島寺、マリヤ実母院、JR一関駅 ②二代目時の太鼓大巡行のPR等、新報に連携するパートナー ・運行にオサザブ：田村青年会議所、あぶくま青年会議所 ・後援の提供：保育園ゆいま～る、ゲストハウスカシヤ ・事業PR：日A、NEXT TWAVE、Creo creators	交流人口に着目して事業構築、実施したことにより、新たな連携パートナーを得ることができたことから一関市に住み暮らして良かった、これからも一関市に関わりたいなど一関市への愛着心の醸成に繋がることができたと考えます。 また、交流人口の確保、増加を契機として、関係人口、定住人口の増加に繋がるものと考えます。 このほか、新たな事業運営手法に「市との共催、元気な地域づくり事業の活用」、「県境を越えて他LOMとの協力による事業実施」を行い、今後の事業構築のあり方の道筋を作ったと考えています。 さらに、昨年の子定着の増加から、いちのせき夏まつり二代目時の太鼓大巡行の参加者増加を見据え、夏まつりへの参加誘導を主眼において一貫性、運動性を持った事業構築ができたことと自己評価しています。		
その他提出物	なし		



一般社団法人一関青年会議所

報告書

カテゴリー

グループ名	会館・委員会名	役職名	担当者名
	価値デザイン委員会	委員長	佐藤 終平
事業名	9月例会「稼げる故郷を未来に残すには～地域づくりやビジネスに向けた価値デザインの活かし方を知ろう～」		公益事業番号
開催日時	2023年9月17日 10:00～11:40	開催場所	一関市川崎市民センター(研修室)
参加人数		事業予算	
対内 20名 対外 14名 合計 34名		164,225 円	
テーマ	価値デザインの考え方を地域づくりやビジネスに活かす意欲を持つ人を増加させます。		
事業内容(200字)	全ての人がびとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)		
価値デザインの考え方を地域づくりやビジネスに活かす意欲を持つ人を増加させることを目的に、講師の成田氏を迎え「稼げる故郷を未来に残すには～地域づくりやビジネスに向けた価値デザインの活かし方を知ろう～」というテーマで講演会を開催しました。	価値デザインの必要性を対象者に広く発信することで価値デザインの考え方を地域づくりやビジネスに活かす意欲を持つ人を増加させます。また対談形式のセミナーを実施することで参加者との交流を深め、地域づくりやビジネスにつながるきっかけを提供します。		
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)	全ての人がびとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)		
BBQ&CO株式会社：モデルケースの紹介 株式会社イーハトーブ東北：価値デザインの事例紹介 株式会社テクノボンス：価値デザインの事例紹介	「地域づくりやビジネスに向けた価値デザインの活かし方を知ろう」をテーマに本事業を実施したことで自分たちが住み暮らす一関地域の魅力や価値について再認識する機会を創出し、価値デザインの必要性について参加者と一緒に考えるいい講演会となりました。 参加者からは今まで知らなかった価値デザインの手法をしり、自社や家業などにつなげていきたいなどのお声をいただきました。		
その他提出物			



公益社団法人日本青年会議所 2020年度

報告書

カテゴリー

グループ名	会館・委員会名	役職名	担当者名
	若者活躍社会創造委員会	委員長	鈴木 達也
事業名	若者が活躍する社会のために～地域連携教育について考える～		公益事業番号
開催日時	11月16日 18:00～20:10	開催場所	一関文化センター小ホール
参加人数		事業予算	
対内 17名 対外 9名 合計 26名		20880 円	
テーマ	教育の中で地域と関わりを持つことができる仕組み作り		
事業内容(200字)	全ての人がびとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)		
教育の中で地域と関わりを持つことができる仕組み作りのため、1部で今年度の委員会が実施してきた事業の紹介と教育をきっかけとして若者が活躍することによる効果とイメージを共有しました。2部で実際に教育を通じて地域と関わりを持つための仕組みとしての「地域教育連絡会」を構築していくために必要な、各団体のニーズとシーズ、目的の共有のためにテーブルワークを実施しました。 その後事業を基に、第一回地域教育連絡会を開催しました	高校生は将来のことを真剣に考える時期。そこでの学習や体験が豊かであるほど地域のこれから担う人材が育つ。小中学校はPTAや地域コミュニティと連携した地域での学習や取り組みがあるが、高校では全体的に少ない(学校による)。商工会議所や行政との連携を含め各高校の教諭との繋がりなど個人的なたちとなってしまうが、各主体が連携の動きを創るのはそれぞれの性質上困難。そのため、教育の中で地域と関わりを持つことができる仕組み作りを目的とし事業の実施を行いました		
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)	全ての人がびとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)		
・一関市役所各課(事業・取組へのアドバイス、参画、後援) ・一関商工会議所(事業・取組へのアドバイス、参画、後援) ・一関市内高等学校各校(事業・取組へのアドバイス、参画) ・一般社団法人いわて圏(次回以降の事務局の担い、会議運営のアドバイス、補助)	高校、行政、地域企業が連携して教育を行っていくことの必要性、課題について共有できたことにより、今後地域が連携して教育を行い地域の教育の質が上がることが見込まれます 地域と一体となって教育を行っていくことにより若者が地域に触れ合う機会が増え、愛着を持ちポジティブな感情が生まれていく環境が生まれていくことが見込まれます 地域を知ってもらうことにより、地域で働く人が増えることが見込まれます		
その他提出物			



一般社団法人一関青年会議所

報告書

カテゴリー

グループ名	会期・委員会名	役職名	担当者名
	次年度事務局	次年度理事長	鈴木 達也
事業名	11月例会「次年度アワー～OB先輩から学ぶ JCで得られる成長の機会～」		公益事業番号
開催日時	2023年11月27日 17:00～21:15	開催場所	ホテル松ノ薫一関
参加人数		事業決算額	
対内 21名 対外 17名 合計 38名		74,130円	
テーマ	一関青年会議所の運動、活動への理解を深める。青年会議所の出向の機会についての理解を深める。		
事業内容(200字)	全ての人がびとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた内容の精査(200字)		
第1部では一関青年会議所の今年度の事業報告および次年度理事長予定者の挨拶、方針発表を行い、参加者に一関青年会議所の運動、活動への理解を深めていただきます。 第2部では一関青年会議所OB先輩の細川賢司氏を講師として、自身のJCでの活動、特に日本青年会議所に出向した際の経験についてご講演いただき、参加者にJCにおける出向の意義と価値について理解を深めていただきます。	参加者の方には、第1部の一関青年会議所の今年度事業報告や次年度理事長予定者の挨拶を聞いていただく事で、青年会議所の運動や活動について理解を深めていただきました。また、細川賢司様の講演を聞き、メンバーは出向の機会についての理解を深め、対外の方には青年会議所の活動の幅広さと出向という機会について新たな気づきを得ていただく事が出来たと考えます。		
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)	全ての人がびとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)		
会員候補者 14名(事業への参加) 一関青年会議所OB先輩 3名(事業への参加)	講師の細川先輩の講演は、青年会議所の出向で得られる経験や学びは自身の成長に大きくつながるということが理解できる内容でした。メンバーにとって、今後出向の機会に対して前向きに捉えることが出来る様になったり、出向するメンバーへの理解や応援する気持ちが高まることで、LOM全体として皆が協力して活動できる環境につながるものと考えます。		
その他提出物			



一般社団法人一関青年会議所 2023年度

報告書

カテゴリー

グループ名	会期・委員会名	役職名	担当者名
	事務局	事務局長	小松 将洋
事業名	12月例会「卒業式 式典の部」		公益事業番号
開催日時	2023年12月3日(日) 15:00～16:40	開催場所	ホテル松の薫 一関
参加人数		事業予算	
対内 18名 対外 26名 合計 44名		103,254円	
テーマ	卒業式の企画・運営		
事業内容(200字)	若者が活躍できる街一関の創造に向けた内容の精査(200字)		
現在の一関青年会議所は20歳から40歳までが所属することができる団体であり、40歳を迎えた会員が毎年12月に卒業します。我々現役メンバーは、卒業生へ今までの感謝を伝え、卒業生からは想いを託される機会が必要です。 卒業生の想いを受け取り、今後の活動への意欲を強く持ってもらうことを目的として卒業式式典の部を開催しました。 理事長坂下立志君の式辞代理として副理事長清水善郎君、メンバーを代表して阿部裕章君、熊谷勝亦君、鈴木慶君の送辞、卒業生、平間正宏君、機山等君、菅原翔太君の答辞から卒業生のこれまでの活躍と想いを受け取り、メンバーの今後のJC活動への動機づけにつながる事業となりました。	今回の卒業式では、JCを卒業するまでに行ってきた活動も重要となるという意識が芽生えました。40歳で卒業する際、良かったと思える活動をしてきたからこそJCに関わらなかった同世代と同じではいけない、地域にとって「使える人材」「何かできる人材」にならなければならないと出席者が思ったと考えます。 これまでの卒業生が携わった活動の経験の共有と、卒業後にどうなるかという意識から、人材育成から将来にわたる地域課題の解決、地域の発展につながるものと考えます。		
外部出席者・経歴及びJCとの関わり(300字)	全ての人がびとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造に向けた結果報告(400字)		
一関青年会議所OB会 会長 佐々木一嘉先輩(お祝いの言葉) 一関青年会議所OB先輩の皆様 26名	地域課題を解決し、彩り豊かな地域につなげるために本年は「若者が住みたくなるまち一関」の創造に向けて運動を行って参りました。本事業で卒業生のこれまでの活躍や想いに触れ、残るメンバーの今後の活躍だけでなく、卒業までに何を成すかを意識することの認識が広まったと考えられます。地域が今後も持続していくための活動、運動の基となる個人々の意識に訴えるものであり、その認識からそれぞれの今後の活動に活かされるものと考えられます。		
その他提出物			



〈役員出向者報告〉

公益社団法人日本青年会議所

阿部徹

東北地区協議会 直前会長

岩手ブロック協議会 顧問

好循環地域確立会議 委員

全国にてセミナー講師としてお招きをいただき、現地や ZOOM などで講演をさせていただきました。

また、それぞれの出向したところでもアドバイザー的な役割で貢献ができたと思います。

引き続き、最新の情報を得ながら、JC 運動を展開できる役割を担っていきたいと思います。

多くの方々のご縁に感謝です。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区岩手ブロック協議会 副会長

阿部 勇太

2023 年度は、公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会の副会長として出向してまいりました。

担当委員会は、岩手の未来創造委員会で7月に花巻の地で開催されました「第52回岩手ブロック大会 in 花巻」でのメインフォーラムを担当しました。

メインフォーラムでは、地域に住み暮らす方々や企業が地域内のモノやサービスに1%でも切り替える消費行動の変容を促すことと地域の価値を追求し「ヒト・モノ・カネ」を地域内に1%でも残し続けるための仕組み（地域内経済循環）の必要性を広めることを目的とし、講師に株式会社日本総合研究所 主席研究員 藻谷浩介様による講演をはじめ、岩手県内の青年会議所から3 LOM の理事長に登壇いただき、実際に地域内経済循環を取り入れて事業を展開したことで地域にどのような成果があったのかをクロストーク形式で行いました。事業当日は多くの方々に聴講していただき、持続的な地域の創造への一助になったと感じております。

事業構築を通して、岩手県内の青年会議所理事長をはじめとするメンバーとブロック協議会役員の皆様にお力添えをいただき、副会長として1年間職務を全うすることができました。

また、苦楽を共にした岩手の未来創造委員会に出向した、JCI 陸前高田 菅野 龍介委員長は、2024 年度理事長に就任、JCI 遠野 畠山 賢一 副委員長は、2024 年度副理事長として次年度も活躍されます。出向の経験はこれからの JC 活動にとって有意義な事だと改めて実感いたしました。ぜひ、出向で学んだ経験を活かして次年度もお二方が各地域においてご活躍されますことをご期待しております！！

結びに、一関青年会議所メンバーにおかれましては、ブロック大会当日メインフォーラムでの手伝いや準備に率先して行動をしていただき心強く、とても頼もしかったです。1年間出向という形で一関青年会議所メンバーの支えと機会をいただき、ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所
東北地区岩手ブロック協議会 事務局次長
菅原 輝

岩手ブロック協議会 事務局次長として出向させていただきました。

この1年間、各地をまわり会議の設え等をさせていただく中で培った経験を LOM へ還元し、ここで出会った方々との縁を大切に今後も精一杯活動してまいりたいと思います。

出向の機会を与えていただき、また1年間サポートしていただいた皆様、本当にありがとうございました。

< 委員出向者 >

公益社団法人日本青年会議所
地域グループ 好循環地域確立会議 委員 阿部 徹

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
岩手の未来創造委員会 委員 阿部 賢太郎

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
ブロック大会運営委員会 委員 熊谷 勝弥

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
連携推進委員会 委員 佐藤 友世

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
LOM支援委員会 委員 佐藤 慎

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
総務広報委員会 委員 千葉 堅司

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
いわて JAYCEE アカデミー委員会 塾生 鈴木 達也

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
いわて JAYCEE アカデミー委員会 塾生 鈴木 陵

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
いわて JAYCEE アカデミー委員会 塾生 菅原 輝

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
いわて JAYCEE アカデミー委員会 塾生 千葉 堅司

公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
いわて JAYCEE アカデミー委員会 塾生 畠山 成光

<2023年度会員移動一覧>

<新入会員> (6名) 加藤 昌範 君
吉田 侑樹 君
吉田 徹郎 君
小岩 玄汰 君
澤田 彩音 君
上野 裕太郎 君

<退会会員> (2名) 金森 和也 君
伊藤 雅成 君

<卒業会員> (3名) 平間 正宏 君
槻山 等 君
菅原 翔太 君

資料編

青年会議所とは

理念と目的

青年は理想に燃え、未来への期待を常に強く持っています。希望に満ちた明るい豊かな社会、正義が行われる理想の社会の実現を心から熱望するために、青年は次代の担い手として大きな責任を自覚し、新しい世界のための推進力にならなければならないと考えます。

青年のこの夢を実現するため、同じ理想と使命感を持つ若い世代の人々を広く共通の広場に集め、友情を深めつつ、強く影響し合い、刺激しあって、“若さ”がもつ未来への無限の可能性を自分たちの手で効果的に描き出し、“明るい社会”を目指して、青年の情熱から生まれる果敢な行動を結集すべく、組織された団体が青年会議所(JC=Junior Chamber)です。

「われわれJAYCEE(青年会議所会員)は、社会的、国家的、国際的な責任を自覚し、志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう」との日本青年会議所綱領は青年会議所の決意、行動理念と目標を明確に表現しています。

特質

青年会議所を他のすべての団体から区別する最大の特質は、会員の“年齢制限”にあります。会員はいかなる人種、国籍、性別、職業、宗教であってもかまいませんが、年齢満20歳から40歳までであることを要し、“品格ある青年”でなければなりません。したがっていかに長期間にわたり、有能で活動的な会員であっても、満40歳に達したら退会しなければなりません。この素晴らしい年齢制限のゆえに、青年会議所は絶対に若さを失わず、常に希望に溢れ、未来に向かった前進を続ける団体として活動することができるのです。

青年会議所は世襲経営者のクラブではありませんし、単に社会奉仕を行う団体でもありません。青年会議所は未来を目指し、よりよき明日をめざしてわれわれの住む地域社会・国家・全世界のために、われわれが今日の犠牲を払うことを厭わず、常に進歩への挑戦を行う、理想と具体的総合的な施策をもった青年指導者の運動です。

組織

会員は自分が住んでいる地域にある青年会議所に所属しています。われわれが会員であることは市民としての自発的な自由な意志によるのです。それゆえにこの運動の単位は、あくまで各地青年会議所の日常の活動にあります。

1949年2月、東京に始まった日本の青年会議所運動は、50余年の歳月を経て、戦後日本の民間運動の白眉といわれるほどの拡大発展をとげました。現在、日本の隅々にわたり、679都市で活動を続け、会員約32,400名を擁する、青年運動最大の団体となりました。全国679青年会議所はそれぞれ集まって、47ブロック協議会を構成し、さらにそれが日本を10地区に分ける地区協議会が集められ、それを総合調整する機関として日本青年会議所があります。日本青年会議所は国際青年会議所(JCI-JUNIOR CHAMBERINTERNATIONAL)に加盟して、国際的なJCの運動の一翼をになって活動していますが、世界中では約16万5000人の会員が同じ理念のもとに国際的な同志感をもって運

動を続けています。

事業目標 “社会と人間の開発”

創立以来の“個人の修練、社会への奉仕、世界との友情”の青年会議所の三信条は、われわれの運動50余年の展開の中で、年を追って具体化され、青年会議所運動とは要するに、“指導力開発と社会開発”であるとの事業スローガンに固まってきました。われわれ会員は市民社会の一員として市民と共通の生活基盤に立ったものの考え方見方を出発点とし、市民の共感を求め、住みよい明るい豊かなまちづくりに向かって努力するとともに、青年会議所日常活動の場を通じ、われわれ個人個人をよりよく開発することが青年会議所運動にほかならないと考えます。

青年会議所の“指導力開発”とは民主的な集団指導力あるいは集団運営能力の研究と実践であるといわれます。まず会員個人がすぐれた市民、職業人であるために自ら厳しく訓練し、さらに市民社会の中であって、市民が目標に向かって一致協力するように働きかけながら市民とともに進む、その全過程が青年会議所のいう指導力開発です。

指導力開発を推進するもっとも有効な手段として、青年会議所は“社会開発計画”事業を中心とする運動をもっています。会員一市民が住むまちの明るい豊かな明日のために、それぞれのまちの問題を市民の中から掘りおこし、市民とともにその解決をはかるという方法です。

青年会議所運動は自由な自発的な意志により加入した会員の起こす運動であるからには、われわれのまちの運動、市民運動の中心でなければなりませんし、市民にその意志を認められなければなりません。

青年会議所の目標は明るい豊かな社会の創造であり、その新しい社会をリードするにふさわしい人を数多くつくることです。

青年会議所とその運動は決して完成されたものではなく、社会の進歩とともに、さらに発展していくと思われまます。

青年会議所は時代とともに新しい呼吸を続け、次々と新しい青年がこの団体を背負っていくでしょう。

青年会議所は常に英知と勇気と情熱を持った青年を求めて、その門戸を大きく開いています。

(2000字 解説文)

JC宣言文とその解説

JC宣言文

「日本の青年会議所は」

まず初めに、全国の会員にも外部の方にも、このJC宣言文の主体が誰なのかを明確にし、組織としての責任と役割、そして運動の方向性を再確認することが必要です。

「青年会議所は」と明示することで、この宣言文が会員個人ではなく、「組織」としての宣言であることを示しています。

また、「日本の」とすることで、国内における全ての青年会議所がJC宣言文の主語であることを明示し、志を同じくする全国の会員同士の強い「連帯」も表現しています。

「希望をもたらす変革の起点として」

青年会議所は、明るい豊かな社会を創るために、社会により良い変化を生み出す「変革」を運動として起こすことに挑戦し続けてきました。

物事のはじまりを意味する「起点」は、青年会議所が「率先して行動する組織(Do-tank)」であれという矜持を表現

し、私達から社会変革を生み出していくという意志も表しています。

そして、その運動によって生み出すものの本質は、誰もが、社会と自らの人生をより良くすることができる実感する「希望」であることを示しています。

「輝く個性が調和する未来を描き」

昨今の潮流の中で、グローバリズムからナショナリズムへ、また利他から利己へと、行き過ぎた国家主義や個人主義が助長され、国家間のみならず地域社会の中においても「分断」や「対立」が生まれており、2020年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大によって、それは加速しています。

本来であれば、考え方や生き方の違いは二項対立の構図ではなく、多様性や包括性といった価値観の中で、異なる「個性」として尊ばれるべきものです。

「調和」は、同調を強要し個性を抑圧するものではありません。「人間の個性はこの世の至宝である」と信じる青年会議所は、特定の政治思想にも、また、ナショナリズムや宗教、人種、ジェンダーにも偏らず、あらゆる若者が挑戦できる社会に開かれた組織であるからです。

この様に、広がりつつある「分断」の時代において、様々な個性やアイデンティティの架け橋となる「未来を描く」強い意志を示しています。

「社会の課題を解決することで」

青年会議所は「社会に対して何をする組織なのか?」という問いに対する明確な答えを表しています。

地域に根差す青年会議所の運動は、社会の幅広い課題を抽出し、自らそれを解決することと位置付けています。

「社会の課題」とは、地域固有の課題だけではなく、経済の再生や少子化、高齢化といった国家的な課題、あるいは気候変動や人権問題といった国際的な課題を含み、およそ青年が取り組むべき様々な課題を包括しています。どの様な社会課題であっても、それは地域だけではなく国家や世界と複雑に関係し合っているからです。

だからこそ、私たちは、多面的な「社会課題」を解決する運動を地域毎に起こし、そして、私たちが持つ組織のネットワークによって全国、あるいは世界的な運動へと拡大させ、より良い社会を創り出すことができることを表しています。

「持続可能な地域を創ることを誓う」

日本の青年会議所は、1990年に「地方分権推進宣言」を、さらに、2019年には「SDGs推進宣言」を総会で決議しました。

「持続可能」とは、地域の人口や財政、環境を持続可能なものとするに留まらず、そこに住まう全ての人々が笑顔で生きがいを持ち、自ら挑戦し続けることができる社会を意味します。

全国各地の青年会議所が様々な社会課題を解決することで、自らが住まう地域を持続可能なものとし、そしてその総和によって「明るい豊かな社会」を創ることを誓う形で宣言しています。

JC三信条とその解説

トレーニング（個人の修練）

サービス（社会への奉仕）

フレンドシップ（世界との友情）

■ 1950年5月1日、現在の日本青年会議所の前身とも言えるJC懇談会が開かれ、JC運動の行動綱領として上記の3つが採択された。

■ つまり、JC運動なるものは、まず若い人びとが集まって自己啓発、修練をするものであり、ついでその力を用いて地域社会にサービスするものであって、さらにそのトレーニング・サービスに徹することも、またひ

としくトレーニングにつながるものである。

■ この三信条は非常に単純ではあるが、ここに今日の指導力開発の萌芽を求めることができる。この機会に、その代表的な解釈を述べておく。

「三信条はJC生活規範だ」

第1の解釈は、「3つの信条は分けられない。有機的につながっている」という立場である。3つの原則が同じレベルにあるとする考え方だ。

この見方は、JC三信条がキャッチフレーズとして誕生した当時のいきさつを考えればもっとももうなずけることである。

JCI東京の創立20周年記念誌には、「……このJC運動なるものは、まず若い人々が集まって自己啓発、修練をするものであり、ついでその力を用いて地域社会へのサービスをするものであって、さらにそのトレーニング・サービスを支える力として全員全体を貫くフレンドシップがある。一方、フレンドシップを培うことも、サービスに徹することも、またひとしくトレーニングにつながるものである。と理解されたのであった。」とJC三信条採択時のようすが記されている。

第2は、「奉仕」を強調する立場である。「奉仕を実践する過程で、修練と友情が達成される」とする。

森下泰元会頭は、JCの目的について、「JCの目的は、知識ある青年たちの“社会的権威の実現”にあり、それは“対社会的義務”でさえある。社会的権威の実現、すなわち“社会奉仕”の内容は歴史的社会的に決定せられその過程において修練と友情は達成される。」と、第2の立場を代表して述べている。

第3は、「修練」を強調する解釈である。「JC3信条の奉仕・修練・友情は同レベルのものではない。修練のための奉仕であり、修練場としての友情である」とする立場に立つ。

1963年に発刊されたマニュアル『LT - BooK』には、第3の立場を代表して、次のような1節がある。「……我々周知の3つの路線“トレーニング” “サービス” “フレンドシップ” は、実は並列的等価のものではなくて“トレーニング” に重点があることは明らかで、……青年会議所活動とは“社会のためになる様な行動を通じて行うリーダーシップ・トレーニング” のことだ。」

用語説明

①JC

JUNIOR CHAMBERの頭文字をとったもので
組織としての青年会議所の意。

②JAYCEE (Jayceeでも可)

青年会議所会員個々人のこと。(注:但し、この使い分けは、英語圏のNOMではそれほど厳密ではない。)

③JCI

JUNIOR CHAMBER INTERNATIONALの頭文字をとったもので、国際青年会議所の意。各国青年会議所の連絡・統合・調整機関であり、本部はアメリカ・ミズリー州セントルイスにある。

④NOM(ノム)

NATIONAL ORGANIZATION MEMBERの頭文字をとったもので、国家青年会議所の意。例えば日本青年会議所は、国政青年会議所の中の1NOM(国際青年会議所)である。

⑤LOM(ロム)

LOCAL ORGANIZATION MEMBERの頭文字をとったもので、国家青年会議所の中に属する各地会員会議所の意。現在、日本青年会議所の中には684LOM(各地会員会議所)がある。(2022年1月)

⑥地区協議会

日本青年会議所としての事業計画・方針などを各ブロック及び各地青年会議所に伝達浸透させ、また一方では、各地青年会議所の事業活動・意見などを日本青年会議所に報告や連絡する為の機関である。

現在、日本青年会議所は10区分されており、10の地区会員会議所があり、主な事業としては、各地区会員大会の主催がある。

※DOMといった表記が一部使われていますが、誤りです。

⑦ブロック協議会

日本青年会議所及び地区協議会としての事業計画・方針などを各地青年会議所に伝達浸透させ、また一方では各地青年会議所の事業活動・意見などを、日本青年会議所及び地区協議会に報告連絡する為の機関である。

現在、日本青年会議所には47ブロック協議会があり、主な事業としては、各ブロック会員大会の主催がある。

※BOMといった表記が一部使われていますが、誤りです。

⑧JCデー

日本において最初に青年会議所が開始された1949年9月3日を記念して、毎年9月3日をJCデーと称している。

アクティブシチズンデー

毎年12月11日には、JCI本部において、本年度と次年度JCI会頭出身国の国旗が入れ替わる日となっており、2010年の世界会議大阪大会において、正式にその日の名称が決められた。なお、このアクティブシチズンとは、行動する市民と訳すことが出来、JCI日本の会員のJC活動こそがJAYCEEとしてあるべき姿と考えられて、JCI日本のメンバーのことを示すとも言われている。

⑨承認伝承伝達式

新規に設立を承認されたJCに対し、JCI日本からその承認証が正式に伝達される時の式典である。

⑩スポンサーJC

青年会議所未設立の地域の青年有志にお働きかけ、設立を指導援護する青年会議所のこと。

※一関青年会議所のスポンサーJC・・・JCI盛岡

※JCI水沢、JCI大船渡のスポンサーがJCI一関

⑪シスタJC

国際青年会議所に加盟している国家青年会議所に所属する青年会議所の相互間の親善と友好の為に、相互の交流を行う締結関係を結んだ青年会議所のことで、姉妹JCともいう。

⑫世界会議(ワールドコンGRESS)

国際青年会議所が主催する年1回開催される世界会議のことで、国際青年会議所の事業計画・予算の決定・役員選出・褒賞の授与・翌年度の開催地の決定などが行われるJCI最高の意志決定機関である。開催地は毎年異なるが、開催中には総会・理事会・常任理事会・分科会・視察ナショナルパーティー・アワードバスケットなどがプログラムされている。第1回JCI会議は1946年パナマで開催された。

⑬エリアコンファレンス

国際青年会議所は世界の加盟NOMを地域別に4つに分けている。アフリカ・中近東地域(旧エリアA)、アジア・オセアニア地域(旧エリアB)、南北アメリカ地域(旧エリアC)、ヨーロッパ地域(旧エリアD)の各地域で年1回5月から6月に行われる国際会議をエリアコンファレンスと呼び、アジア・太平洋地域のエリアコンファレンスは、ASPAC(アジア太平洋地域コンファレンス-ASIA PACIFIC AREA CONFERENCE)という名で親しまれている。

⑭直前会頭・直前理事長

単年度制をとっているJCでは、日本青年会議所前年度会頭を直前会頭、LOMの前年度理事長を直前理事長と称している。地区・ブロックでは、直前会長と呼ぶ。

⑮日本JCシニアクラブ

日本JCシニアクラブは、JC卒業生同窓会として相互の親睦を図るとともに、現役活動を陰ながら援助しようという目的で1960年設立された。JC卒業生ならだれでも入会出来る。

⑯セネター制度 (SENATOR)

JC終身名誉会員制度のことで、JCI運動に多大なる貢献をしたメンバーをLOMが承認・推薦し、NOM及びJCIの認証を得てその資格(修身番号)が与えられる。与えられた終身番号は、会員の死後も永久に残るという名誉ある資格である。

⑰出向者

各地青年会議所より国際青年会議所・日本青年会議所・地区協議会・ブロック協議会へ役員や委員として出向して行くメンバーのこと。

⑱「WE BELIEVE」

JCI日本は、対外的・対内的な広報活動の強化と、拡充を図るために、月刊誌「WE BELIEVE」(毎月1回15日発行、A4判)を全会員に配布している。

⑲セミナー

講師の指導のもとに参加者が集って、討議して進める共同研究のことで、ゼミナールともいう。

⑳シンポジウム

語源はギリシャ語といわれて親しい者同士がなごやかに食事をする意である。ある大きなテーマを中心に多くの報告者によって各々の立場から関連したことが講演形式によって述べられる。この特徴は、討論のないことと、あらゆる立場からテーマについて浮き彫りにされるということである。討論は行われぬが、各報告に対する質問は許される。

㉑パネルディスカッション

パネリストによる密度の高い座談会義である。多くの者が全員討議するかわりに数名のメンバーを選んでそのメンバー間で自由に討論してもらう形式である。

㉒コロッキー

パネルディスカッションと同様の形式による会議法で、途中専門家が追加出席して意見を述べ、討論が一方的な方向へ行かない様にコントロール出来る。

②③バスセッション

討論方法である。まず皆が発言できるような小グループに分け、ここで個人個人の意見を自由に表現させ、その意見を調整し、持ちより、全員参加の総会を開く。即ち全員に発言を許し、会議の討論に貢献させる方便として考えられた。この小グループによる話し合いの過程をバスセッションという。

②④ブレインストーミング

皆が集まって、あらかじめ議題を定めず、何人にも拘束されずに自由に自己の創造的アイデアを思いつくままに出していき、集団の集中的ディスカッションによって良い考えを発見・発展させようとする方法。(集団的創造力開発の方法)

②⑤フィリップ66方式

バス形式に似たもので、多人数の場合小グループ(6人)に分け、6分間という時間を定めて短時間に集中的に各グループが会議を行う方式のこと。66式討議ともいう。

②⑥KJ法

川喜田二郎氏によって開発された創造力開発の手法。紙切れ法とも呼ばれ、本調査員関連があるか否かの判断をしないで、ひたすら情報をカード化し、その後、ある一定の方法でこれを組み立てて判断するという手法。例えば、グループごとに話し合い、全体会議で発表してまとめていく。

②⑦ロバート議事法

ロバート・ルールズ・オブ・オーダー。「多数者の権利」・「少数者の権利」・「個人の権利」・「在不在者の権利」の4つの権利と、「一時一件の原則」・「一時不審議の原則」・「多数決の原則」・「定足数の原則」の4つの原則を基本的なルールとして行う会議運営の方法。これは国連をはじめ、世界各国で採用され、青年会議所でも正式に採用されている。

②⑧コーディネーター

会議の際に、それまで出された意見を集約、調整し、会議を進行させる担当者。

②⑨アドバイザー

パネルディスカッションなどの討議会の時に、会議を進行させる為に助言を行う講師のこと。

②⑩パネリスト

パネルディスカッションを行う時に、各分野から出席する数名の意見発表者のこと。

②⑪CD

コミュニティー・ディベロップメントの略で社会開発のこと。

②⑫LD

リーダーシップ・ディベロップメントの略で指導力開発のこと。

②⑬MD

マネージメント・ディベロップメントの略で経営開発のこと。

②⑭LIA

リーダーシップ・イン・アクションの略で、LDが発展拡大したものである。個人と集団の指導力を開発するプログラムで、実践指導力開発と邦訳されている。1968年のマルデルプラタ世界会議でJCI恒久プログラムに採択された。

②⑮HD

ヒューマン・ディベロップメントの略で人間力開発のこと。

②⑯AOY

アクセント・オン・ユースノ略で、青少年開発のこと。その地域社会に住む青少年を参加させて、地域社会の開発の為により良き道を見出すよう青年達を助ける方法を提供するプログラムである。1970年にダブリン世界会議でJCI恒久プログラムに採択された。

③7三分間スピーチ

LD手法の一つで、電話一通話の時間内即ち三分間で自己紹介から始まり、テーマにそったスピーチを完了させる方法。

③8FC構想

フューチャークラブ構想の略で、青少年が手をつなぐ運動のこと。地域社会にある既存の青少年グループ。会員自身の子弟、会員の経営する企業内の勤労青年などを始動団体として、明日の日本の為の広場づくりを進める働きかけのことである。

③9カテゴリー

本来の意味は、同一性のものが属する部類を指すが、国際青年会議所では、重点事業の項目のことをいう。

④0チャーターメンバー

各地青年会議所会議所が設立された時に入会した初代会員の呼称。

④1スリーピングメンバー

資格を持ち、活動が義務付けられているにもかかわらず、その活動及び例会・総会などにも積極的に参加しない会員のこと。

④2アクティブメンバー

スリーピングメンバーの反対の意。全体の中の個人・個人であつての集団であることの自覚を持ち、そして責任を果たし、社会開発と自己開発に挑戦し、活発に行動する会員のこと。

④3ガイダンスメンバー

オリエンテーション、委員会等でガイダンス勉強期間中の新入会員の呼称。

④4アテンダンス

総会・例会・各会合に出席することをいう。そして出席の証しをアテンダンスカードと呼ぶ。

④5エントリー

褒賞獲得や、または大会誘致等々の為に立候補申請することをいう。または出向者の推薦及び登録のことをさす。

④6アジェンダ

理事会や委員会等を運営する時の式次第のこと。

④7マニュアル

手引書のこと、日本JCには組織に関するもの、運営に関するもの、事業に関するもの等多数のマニュアルを持っている。

④8人間力大賞(旧TOYP大賞)

各地で、様々な分野で、素晴らしい考え方をもちそれを実践し、まちの地域市民として活動を続けている将来性のある若者(TOYP=傑出した若者)の功績を讃え、その運動を広く紹介するとともに、そこから学ぶことを目的としている。

④9褒賞

青年会議所運動を通じて地域に貢献した会員会議所を称え、その名誉を全国に発信するとともに、各地会員会議所がこれらの事業を参考として新たな気づきや学びを得る機会とし、関わるすべての人に地震や誇りを与え、メンバーのモチベーションや未来の青年会議所運動の発展に資することを目的に褒賞制度を設けている。

⑤0プロボノ

ラテン語のPro Bono Publico(良い公共のために)を略した言葉。JCにおいては「公共の利益のためのスキル提供による無料奉仕」と定義し、社会人が仕事を通じて培った専門的知識やスキル・経験やノウハウなどを活かして社会貢献することを意味する。

新入会員のために

新入会員の心得

(1) 新入会員の心得

1. 充実したJCライフをおくる為に、JCをよく理解しなければならない。
2. 常に自分の考えをわかり易く表現することができなければならない。
3. 常に若さと活気に溢れ、笑顔を忘れてはならない。
4. 会員としての責任感を持ち、積極的に参加しなければならない。
5. 進んで難しい仕事に当たり、責任をもって完成させなければならない。
6. 議事法ほか会議の進め方をマスターしなければならない。
7. 完全な議事録を作成できなければならない。
8. 会議の議長を務めることができなければならない。
9. 与えられた時間で自分の意見をまとめ、発表できなければならない。

(2) 会員の心構え

1. 常に高い目標を持ち、その目標に向かって努力しなければならない。
2. 自分自身を識り、向上させなければならない。
3. 目的に向かって計画的に自己を管理しなければならない。
4. 特に自分自身の健康管理をしなければならない。
5. 確固たる信念と強い意思のもとに、目標に向かって直ちに行動を開始すること。
6. 一日一度は自分を見直すこと。
7. 地域高知印の一人として、地域社会の活動に進んで参加しなければならない。
8. 正しいJC運動を地域社会に広めなければならない。

(3) JC会員としてのマナー一人ひとりの言動や行動が多くの会員あるいは組織の品位を傷つけることにつながるから、会員としてのマナーを厳守しなければならない。

1. 品格ある青年として行動する。
2. 常に礼儀正しい服装をし、必ずバッヂをつける。
3. 常に他人に対し、不快の念を与える言動を慎む。
4. 常に他人の話聞く、その権利を尊重する。
5. 諸通知の出欠ハガキは、すみやかに必ず返信を出す。なお、出欠の変更又は遅刻の場合は、必ず事前に事務局まで連絡する。
6. 諸会合には定刻に出席し、時間の無駄使いをしない。また、諸会合に出席した時は、必ず署名登録をする。
7. 発言する時は、挙手して上衣のボタンをかけ、所属および氏名を明確に述べる。
8. 諸会合では、私語・雑談を慎む。
9. 先輩には敬意を示し、挨拶をすると同時に名刺を交換する。
10. 会員同士の付き合いには、相手の人格を損なわないように敬意を示し、笑顔で握手する。